

令和5年度新里福寿大学

第10回講座

「昔話・民話を聞こう」



令和6年1月16日(火)
新里総合センター3階大会議室



石原副館長

令和5年度新里福寿大学の第10回講座は、NPO法人桐生おはなしの学校の皆さんにお願いして、桐生市の昔話や民話をお聞かせいただきました。



桐生おはなしの学校の皆さん



修了証書授与



紙芝居「赤城小沼と長者の娘」の様子

今年度最後の講座「昔話・民話を聞こう」は、紙芝居の2話と語りの5話の7つの演目で行いました。大型紙芝居の2番目の「赤城小沼と長者の娘」は、群馬県では有名な話で色々なパターンがあるのですが、今回は、黒保根町に伝わるお話です。昔、赤堀村に道元という長者がいて、中々子供が授からなかったで、赤城小沼の明神さんに子宝のお願いをしたところ、めでたく女の子を授かりました。娘が16歳になったある日、赤城明神さんにお参りにいきたいと言い出し、大勢を連れて赤城山の小沼までたどり着きました。娘は、喉が渴いたので、沼の水を飲んでいたら沼に飛び込んでしまった。次に、水から現れた時は、上半身は人間で腰から下は蛇になっていた。もともと赤城小沼の主の娘であったと言って沼の奥深く潜ってしまったという悲しいお話でした。

黒保根の医光寺にその娘のものと伝わる帯が残されているということです。皆さんもぜひ見に行ってください。

これからも桐生おはなしの学校の皆さんには、郷土の昔話や民話を語り続けてほしいと思いました。おもしろいお話をありがとうございました。



オカリナ演奏によるふるさと合唱

閉講式では、全10回の講座の内7回以上出席した39人(全50人中)の受講生に修了証書を授与しました。この内9人は、10講座全てを受講していただきました。

受講生の皆さん、長い間ご参加いただきまして、誠にありがとうございました。興味のある方は、是非、来年度ご参加ください。